

平成 28 年 6 月 10 日

各 位

会社名 インスペック株式会社  
代表者名 代表取締役社長 菅原 雅史  
(コード番号：6656 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役管理本部長 富岡 喜栄子  
TEL 0187-54-1888 (代表)

## 中期経営計画の策定に関するお知らせ

当社は、平成 31 年 4 月期を最終決算期とする中期経営計画（平成 29 年 4 月期～平成 31 年 4 月期）を新たに策定しましたので、お知らせいたします。

### 1. 中期経営計画策定の経緯

当社は現在、平成 27 年 6 月 12 日に発表した中期経営計画に基づき、主力事業である精密プリント基板の外観検査装置を中核とした事業活動を行っておりますが、この分野における事業環境が大きく変化していることから改めて計画を策定いたしました。

近年、モバイル機器やウェアラブル機器を始め I o T (Internet of Things) の取り組みに関連した製品市場が大きく拡大しておりますが、その重要なデバイスであるフレキシブル基板の分野では、配線パターンの微細化が進み、高性能の A O I (パターン検査装置) のニーズが高まってきております。特に生産性の高いロール to ロール方式の A O I の普及が進んでくることが予想されるため、当社はいち早くロール to ロール A O I を開発し、このニーズに対応していくことを計画しております。

このシステムは、画像処理システムのみならず搬送システムを含めシステム全体として高い技術とノウハウを必要としますが、当社は T A B テープ検査機で培った技術とノウハウを保有しており、高度化するニーズに対応したシステムを提供してまいります。

また、一昨年設立したテラ株式会社（青森県・弘前市）の事業については、新年度に入り病理検査のデジタル化に向けた諸規定の一部改定が行われ、事業環境が変化しております。

上記の通り、当社を取り巻く事業環境が変化してきたことから、ここに平成 31 年 4 月期を最終年度とする中期経営計画を発表いたします。

### 2. 中期事業の方針（成長シナリオ）

#### (1) 外観検査装置事業

当社は、ハイエンドの A O I (光学式配線パターン検査装置) 及び半導体パッケージ基板向け高性能 A V I (光学式最終外観検査装置) で多くの実績を積み重ね、高い競争力を持つ技術とノウハウを蓄積してまいりました。また、モバイル機器の普及に伴い高い成長を続けている F P C (フレキシブル基板※) 分野では、膨大な人員を必要とする目視検査の自動化のニーズに対応しロール to ロール

方式のAOI及びスタンドアローン方式のAVIを開発し、最適なソリューションを提供するべく取り組んでおります。

これら製品のうち、特に需要が大きく伸びると予想されるモバイル機器向けやウェアラブル機器向けFPC分野では、生産性の高いロール to ロールAOIの導入が急速に進むことが予想されていることから、第29期中に製品の開発を完了させ、第30期以降に新たな事業の柱とするべく取り組んでまいります。

※FPC（フレキシブル基板）：

「フレキシブルプリント回路基板」や「フレキシブルプリント配線板」と呼ばれ、絶縁性を持った薄く柔らかいベースフィルムと銅箔等の導電性金属を貼り合わせた基材に電気回路を形成した基板を指します。

携帯電話のヒンジなど繰り返して屈曲する可動部での配線が可能で、また、主基板から離れた部品に電気信号を伝達する配線や、空間的制約のため配線や基板を曲げる必要がある箇所での3次元配線が可能であり、あらゆる電子機器の小型軽量化・薄型化に現在は欠かせない存在となっております。

外観検査装置事業は下記の主力製品ラインナップを軸に展開してまいります。

◆ フラットベッド型検査装置

○ハイエンドAOI

SX5000 シリーズ（最も微細なパターンの検査が可能な最先端のAOI）

○用途別高性能AVI

BF8000 シリーズ（高性能半導体パッケージ基板用AVI）

BF1100 シリーズ（ハイコストパフォーマンス半導体パッケージ基板AVI）

BP7000 シリーズ（CPU・MPU※用ハイエンドパッケージ基板用AVI）

LF8000 シリーズ（高密度リードフレーム、LED基板向けAVI）

（※ CPU・MPU：コンピューターの頭脳にあたる中央演算処理装置）

○標準型AVI（AV500, AV3300 シリーズ）

AV500 シリーズ（小形低価格の新興国市場向け戦略製品）

AV3300 シリーズ（大型基板用のAVI）

◆ ロール to ロール型検査装置

RA5500 シリーズ（FPC対応AOI）

TR3000 シリーズ（COF※テープ用ファイン対応AOI）

（※ COF：チップ・オン・フィルム 液晶表示用半導体に使用されるフィルム状の精密基板）

(2) プリント基板製造装置事業（First EIE SA 事業）

モバイル機器やウェアラブル端末の成長に伴い、AOI・AVI市場と同様プリント基板製造装置

事業においても今後高い成長が見込まれる地域は南アジア地域です。First EIE 社は、昨年南アジア地域を担当する代理店と販売契約を締結し、この代理店と連携してこの地域の販売を強化してまいります。

First EIE 社は、以下の主力製品ラインナップで事業を展開してまいります。

○フォトプロッター (RP シリーズ)

RP200 シリーズ (26' ×20.5' タイプ)

RP700 シリーズ (36' ×28' タイプ)

RP800 シリーズ (56' ×34' タイプ)

First EIE 社のフォトプロッターは、長期に渡り高いシェアをもち、累計で約 800 台にのぼる出荷実績を持っております。スイス製ならではの高い精度と高信頼性をベースに、ブランドも浸透しており、今後南アジア地域での販売を強化し、売上高の拡大に努めてまいります。

○インクジェットプリンター (CP562)

電子機器の高機能化に伴い 1 枚の基板の機能が高度化し、その品質管理が非常に重要になっております。これに対応し先進的な生産ラインでは、基板 1 枚ごとに I D を持たせ個別管理を実施するというニーズが増加してきています。これを実施するには、基板 1 枚毎に個別の I D (数字や 2 D コードなど) を印刷する必要がありますが、このニーズに対するソリューションとして、First EIE 社は高性能のインクジェットプリンターを提供しております。

○ダイレクトイメージング

近年、主にパッケージ基板メーカーでは、高精度のダイレクトイメージング装置の導入を進め、多くのメーカーが高精度ダイレクトイメージング装置を開発し提供してきました。

一方、パッケージ基板より一段階パターンが広い一般精密基板分野では、対応するダイレクトイメージング装置が無く、小ロット生産や試作ラインなどでは、従来のフィルムマスクによる生産を余儀なくされてきました。

First EIE 社では、このニーズに対応する低価格で中レベルのダイレクトイメージング装置として、2013 年に EDI500 をリリースいたしました。一般精密基板のカテゴリーでは数少ない装置として、高精度品と比較して約 1 / 3 の価格で提供できることもあり、日本国内や海外市場で導入する企業が増加してきております。

本装置は小ロット生産に適していることから、アジア地域に限らず北米市場やヨーロッパ市場の潜在顧客にも積極的に販売活動を実施してまいります。

(3) 医療関連機器事業

医療関連機器事業においては、病理検査の分野において急速に進むデジタル化の取り組みに対応するため、バーチャルスライドシステム (国際的な名称は、WSI (Whole Slide Imaging) の新製品である Fino-WH を筆頭にシリーズを拡充し、テレパソロジー (遠隔による病理検査) を実現するためのソリューション提供の取り組みや、病理検査のダブルチェックを実現するソリューション提供など、この分野のデジタル化のニーズに貢献してまいります。

今後、病理検査のデジタル化は急速に拡大していくものと見込んでおり、テラ株式会社を中心にインスペックの技術部署も連携して競争力のある製品を開発し、拡大する市場で高いシェアの獲得を目指してまいります。

#### 中期経営計画数値目標

本中期経営計画期間の主な事業分野は、精密プリント基板分野の外観検査装置事業、製造装置事業、医療関連機器分野としてバーチャルスライドシステム（WSI）事業及びこれら全事業に対する保守・サービスその他であります。

平成 28 年度策定の中期経営計画の数値目標（※）

（百万円）

		第 29 期 平成 29 年 4 月期	第 30 期 平成 30 年 4 月期	第 31 期 平成 31 年 4 月期
外 観 検 査 装 置 事 業	フラットベッド型検査装置	850	800	900
	ロール to ロール型検査装置	456	850	1,350
	インライン検査装置	57	100	200
	自動機、その他	137	50	50
売 上 高 計		1,500	1,800	2,500
プリント基板製造装置事業		620	700	800
医療関連機器事業		200	600	1,200
連 結 売 上 高 計		2,320	3,100	4,500
営 業 利 益		170	360	750
経 常 利 益		160	310	650
当 期 純 利 益		100	150	300

（※） 当社の製品について、必ずしも計画通りに販売できる保証はありません。

検査装置事業は、受注から検収まで約 4 ヶ月を要し、ユーザーの検収に基づき売上計上をしております。また、1 台あたりの製品が比較的高額であることから、ユーザーの検収タイミングによっては事業年度期間を前後することで当社の売上が変動し、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

### 3. 取組方針

#### （1） 外観検査装置事業

##### ◆ フラットベッド型検査装置

- ・ハイエンドAOI（SX5000 シリーズ）

ハイエンドAOIは、国内市場は直販と代理店販売、台湾及び中国市場は台湾のTKK（台湾港建設股份有限公司）を代理店として、南アジア地域は新たな代理店を通して販売及びサービス活動を展開いたします。

- ・用途別高性能AVI

用途別高性能AVIは、ハイエンドAOIと同様の体制で取り組みます。

- ・標準型AVI（AV500, AV3300 シリーズ）

標準型AVIは主に海外市場がターゲットとなるため、台湾及び中国市場は台湾のTKKを代理店として、南アジア地域は新たな代理店を通して販売及びサービス活動を展開いたします。また、First EIE社が世界各地にもつ代理店網を通して新たな地域での販売に取り組みます。

◆ ロール to ロール型検査装置

COFテープ分野（主に4Kテレビ向け）は、トップシェアを持つ強みを活かし直接販売を原則として国内及び台湾のユーザーへの販売及びサービスを展開いたします。この業界は、リーマン・ショック後に淘汰が進み現在は世界で5社に集約され、そのうち日本1社、台湾2社の3社が当社のユーザーとなります。（残り2社は韓国）

FPC分野は、日系企業が上位を占めているため、生産規模の大きい日系企業にターゲットを定めて、代理店と連携して最新の高性能検査装置の販売に積極的に取り組みます。

(2) プリント基板製造装置事業

First EIE社の事業は、現状の代理店網（イギリス、フランス、ドイツ、スウェーデン、ロシア、スペイン、トルコ、アメリカ、インド、日本、韓国、台湾、香港）に加え、南アジア地域で新たな代理店を通し販売活動に取り組みます。

(3) 医療関連機器事業

バーチャルスライドシステム（WSI）の販売は、国内各地の医療機関と取引のある代理店を通して販売活動に取り組んでおりますが、急拡大する市場に対応するため代理店を組織化し販売体制の強化に取り組みます。

アメリカ市場及びヨーロッパ市場については、新たな代理店との連携を計画しており、代理店網を通して販売体制を構築してまいります。

4. 財務及びキャッシュ・フロー方針

当社グループは、事業における生産活動及び技術開発や製品開発等の投資活動をベースとして企業価値の向上を目指し、最適な財務及びキャッシュ・フロー戦略を実行してまいります。

今後、本中期経営計画の中で創出されるキャッシュ・フローは、成長を支える戦略製品の開発に重点を置きつつ、健全な財務バランスを維持して活用してまいります。また、まとまった大口受注の発生等により一時的な資金需要の発生が想定されますが、主要取引金融機関との良好な関係を構築し機動的な資金調達による事業資金の安定化に努めてまいります。

5. 経営基盤強化に向けた主な取り組み

(1) 販売ネットワークの強化及び拡大

当社及びFirst EIE社が属するプリント基板産業は、日本で発展し台湾及び韓国に展開し、その後中国に拡大するという経緯をたどってきました。近年ASEAN地域の新興国が高い経済成長を示すようになるとともに多くの企業がASEAN諸国に進出を始めております。今後プリント基板

産業は、この地域での生産拡大が見込まれるため、ASEAN地域に販売ネットワークを持つ代理店と協力関係を構築して販売体制及びサービス体制の強化に努めてまいります。

テラ株式会社が取り組んでいる医療関連機器事業で、病理検査の分野において急速に進むデジタル化の取り組みに対応するため、バーチャルスライドシステム（WSI）の新製品である **Fino-WH** を筆頭にシリーズを拡充し、国内におけるテレパソロジーを実現するためのソリューション提供の取り組みや、病理検査のダブルチェックを実現するソリューション提供など、この分野のデジタル化のニーズに対応してまいります。

一方、バーチャルスライドシステム（WSI）の米国及び欧州の市場は、すでにそれぞれが日本の10倍以上の規模となっております。テラ株式会社では、早い段階で販売代理店を通じた販売ネットワークを築くとともに、代理店と協力して海外を含めたサービス体制を構築し、ユーザーとの信頼関係の強化に努めてまいります。

## （2） 事業分野の拡大

当社は、いままで精密プリント基板分野において外観検査装置を主力商品として事業を展開してまいりました。特にミドルエンドからハイエンドの高いスペックを要求される分野に特化し、高性能で付加価値の高い製品を中核とした事業活動を行っており、当社製品の高い性能ときめ細かいサービスを背景にユーザーの皆様から高い評価を得てきております。

一方、今まで培ってきたコア技術をベースとし、協業によるシナジーで新たな技術・新たな製品を生み出し、異分野も含めた新しい市場をグローバルマーケットに求めることで、将来に渡る持続的な成長と強固な経営体質を実現するため、First EIE社（スイス・ジュネーブ）の子会社化を実施し、他方、医療関連機器事業を行うテラ株式会社（青森県・弘前市）を設立して2社をグループ化し、成長戦略の転換を推進してまいりました。

今後は、企業グループとして積極的にシナジーを拡大し、活動範囲をグローバルマーケットに広げて、持続的な高い成長と同時に安定した経営の実現に取り組んでまいります。

## （3） スリムでシンプルな経営体制

当社グループは、いずれも製造業ですがメーカーとしては極めて小規模な企業体制を取っております。この小規模体制であることを強みとして活かし、その上でグローバルマーケットに向けて事業を展開していくため、コア技術及び業務は社内でも確立し、アウトソーシングが可能な業務については、外部企業の協力を得ることで必要な生産能力を確保し事業の拡大を図ってまいります。

このため、販売活動のみならず生産業務、サービス業務、一部の開発業務等についても、国内外を問わず求める能力とコストのバランスを検討し、最適パートナーと判断出来る企業との協力関係を構築して事業活動を進めてまいります。

この方針のもとに、スリムな体制を維持しつつ高成長・高収益を目指し、強固な経営基盤の構築を実現してまいります。

上記に記載した数値目標については、現時点で入手可能な情報に基づき、当社で判断したものであります。この数値目標には、さまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの数値と異なる場合がありますので、当該情報に全面的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控えていただきますようお願い致します。

以上